額

〔南方錄〕額

草庵の破風、又は玄關庇下にも掛、庵の名其外にても主の心持次第也、草庵の額見所多く景過たるは惡シ、

〔茶道筌蹄〕小座鋪之部

額　小坐敷にては不審庵形を本とす、杉の木にて古溪和尚の書也、彫て胡粉を入る、○略圖

燒杉は元伯好、緣を殘して彫込の丸額は吽翁好み也、彫額又は打付書兩樣とも用ゆ、紙額は用ひず、

天井

〔茶道筌蹄〕小座鋪之部

天井　小坐敷は、網代、蒲、長片、此三通也、板天井は小坐しきに用ひず、嵯峨西芳寺に、居士○千利休このみの三疊敷の緣の上に土天井あり、光悅大虛庵は、八疊の內六疊は土天井なり、

カケ込　上の板はワリノヲ平打ノヲ、横フキ板は宗全好み、いづれも竹タルキなり、スヽ竹幅八分の割をハサミに打は、江岑好なり、

〔和泉草〕一天井昔板天井玄ま〳〵板、長へぎ板などにてかろくして、おしぶちは大形木竹にても仕候也、此板天井張付の六疊敷の時用事に候、何れ之座敷にも、板天井之時可爲此作法也、

床

〔茶道早合點〕茶室

下座の方にある床を下座どこと云、床もなく壁に床の形ばかり有て、掛物花入をかけるを壁床といふ、○略中

床　上壇有て緣ある床は本式なり、緣なく上だんなきを蹈込床といふ、土にて塗廻したるを室床といふ、洞のごときを洞床と云、床の眞中を軸前といふ、客の向の方を軸先といふ、上座客の居る方を軸脇といふ、